

完了報告書（平成 24 年度）

提出者 黄 蘊 _____

提出年月日 2013 年 3 月 31 日 _____

【プロジェクト名】

和文 「東南アジアの地域社会における宗教・社会組織の諸相と親密圏・公共圏の現在—宗教・生存・連帯のパースペクティブから」

英文

【メンバー構成】

研究代表者 黄 蘊

幹事

メンバー 日下 渉、長坂康代、櫻田涼子、松嶋宣広、福浦一男、伏木香織

【ねらいと目的】（600 字程度）

本プロジェクトは最終的に、『往還する親密性と公共性——東南アジアの社会組織にみるアイデンティティ・生存の再創生』という名前で刊行される予定になっている。本書では、東南アジアの社会組織が、グローバル化のもとで急激に変動する地域社会において、親密性と公共性を同時に活用し、状況に応じて親密性を強めたり、または自らの公共性を創出し、アピールしたりすることで、自身の文化やアイデンティティを主張し、あるいは困難な状況で生存を図っていることを明らかにする。

【活動の記録】

これまでそれぞれ 2012 年 7 月、10 月、11 月、2013 年 3 月に系 4 回の研究会、合評会などを開催してきました。

2012 年 7 月に開催された研究会においては、それぞれの執筆者が自分の執筆予定内容、全体の枠組みなどについて報告し、意見交換を行いました。全員出席しました。

2012 年 10 月に第一回合評会を開催しました。押川文子先生を含め、系 5 名が出席しました。それぞれの論文内容について、有意義な議論と意見交換を行いました。

2012 年 11 月に少人数による打ち合わせを行いました。主に序論の内容について意見交換を行いました。

2013 年 3 月 28 日に、京大出版関係者を含めた編集会議を開催しました。最終的な各論の内容チェック、全体の理論的枠組みに関する議論を交わしました。

【成果の概要】（800 字程度）

本書は、東南アジア諸国の宗教、社会組織にみる親密性、公共性、また親密圏、公共圏にまつわる事例を取り上げるもので、それらの事例への照射を通して、西欧社会または他の地域にも通用するような、親密性と公共性に関する幅広い思索空間、再考の契機を提供することをめざすものである。

本書のなかで明らかにされたように、親密圏と公共圏の線引き、それぞれの領域の画定は難しい。それと同時に、親密性と公共性の厳密な区別もときには不可能に近い。各章の事例からみえてくるように、人々の活動原理、連帯の動機には親密性と公共性が分かちがたく結びついていることが少なくない。親密性と公共性の相互転化、つまり、公共性が親密性を強化したり、あるいは親密性の質的転換を促したりし、また逆に親密性が結果的に、自他を含む広い意味での公共性構築に昇華するケースもみられる。「大衆的公共性」、「地域的公共性」という多様な公共性のあり方も本書の事例からは明確になってきた。

公共性には重層的な意味の次元が存在するように、親密性にも様々な内容、性質が存在しうる。本書の諸章が対象とする人々の生活世界は多様で動的であるだけに、主体である個々の人間は様々な動機、戦略のもとで多種多様な、また伸縮可能な親密性を結んでいるのである。このような親密性のなかには公共性がすでに織り込まれている場合もあるし、両者が揺れ動いては交錯する実状は現実そのものの反射と思われる。

【通信欄】

様式 2

最終成果報告書（ワーキングペーパー）のホームページ公開に関する許諾書

研究成果タイトル

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」に提出する上記の最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）の PDF ファイルを同プログラムのホームページに公開することについて、下記のように返答します。

2013 年 月 日

最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）

の執筆者全員のお名前（自署捺印）

記

- 許諾する。
- 部分的に許諾する。
許諾する部分を具体的にご記入ください。
- 下記の理由により許諾しない。
 - 調査対象者の個人情報保護のため
 - その他（具体的に理由をご記入ください）